会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会 ＜意見交換会＞		会議場所 全員協議会室
			担当職員 三宅
日 時	平成27年7月27日(月曜日)	開 議	午後 1時 30分
		閉 議	午後 3時 26分
出席委員	湊 小島 菱田 並河 福井 齊藤 藤本 (西口議長)		
出席者	【産業観光部】山田部長、【観光戦略課】森課長、松本主幹、玉井観光企画係長		
	【一般社団法人亀岡市観光協会】 楠会長、奥村副会長、川本副会長、木戸副会長、船越事務局長		
出席事務局	藤村事務局長、鈴木議事調査係長、三宅主任		
傍聴者	市民 1 名	報道関係者 名	議員 名

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

1 開会

亀岡市議会産業建設常任委員会委員長（あいさつ・開催趣旨説明）

< 湊委員長 >

（あいさつ）

（開催趣旨説明）

現在、議会では議会活動を積極的に推進する中、他団体等との意見交換会を積極的に行い、聴取した意見等をまちづくりに反映していくことをめざしている。その取り組みとして、今回、当常任委員会では、観光振興に向けて今何が求められているのか、議会は何をしなければならないのかを考える機会とするため、本日の場を設けさせていただいた。

現在、本市においては、交通インフラ整備が進んでいる中、京阪神800万人以上と言われる大都市圏に隣接し、京都府の中心に位置しながら、日本一の観光都市である京都が隣まちであるのに、本市のことは全国的にも中々知られていないのが現状である。

先般、18日には京都縦貫自動車道が北部とつながり、第2外環状道路を渡って、口丹・中丹・丹後地域においては、交通量が大変増大している。観光客や物流、雇用の面においても大きな伸びを示している中、本市は大都市に近いまちとして、今後どのような活動をしていくべきなのか、それぞれ忌憚のないご意見をお聞かせいただき、まちづくりに生かしていきたい。有意義な実りの多い会となるよう願う。よろしく願います。

2 開会あいさつ

・ 亀岡市観光協会会長あいさつ

< 楠会長 >

（あいさつ）

観光協会では、様々に本市の魅力を発信する取り組みを行っており、その成果とし

て、観光入込客数は、平成20年には200万人を突破し、昨年は240万人を超え、順調に増加しているところである。また、実行委員会体制で取り組まれている亀岡光秀まつりや亀岡夢コスモス園の事務局を担当し、観光協会の事務事業が増大する中、昨年度にはさらなる亀岡観光の発展に寄与するため、一般社団法人として新たな一歩を踏み出すとともに、本年、当協会は、創立50周年の記念すべき節目の年を迎えた。

本年度の主な事業計画としては次のとおりである。

1 番目、京阪神の主要駅や大型店舗、高速道サービスエリア等での観光キャンペーン、国内外のエージェントに対する観光プロモーションの充実。

2 番目、京都縦貫自動車道全線開通、全国広域高速道路網につながることによる観光動向の変化を見据え、移動の利便性向上を生かした広域観光の取り組みの充実。

3 番目、光秀公ゆかりの地連絡協議会やNHK大河ドラマ誘致推進協議会と連動した活動。

4 番目、継続事業として多様な地域資源を活用した魅力ある旅行商品の醸成と着地型観光の実現、ロケーション支援による撮影実績を観光に生かすコンテンツツーリズムの可能性の検討等。

今後も観光推進の取り組みを通じてまちづくりの一翼を担えるよう、なお一層努力していくので、引き続き支援願いたい。

・ 亀岡市産業観光部長あいさつ

< 産業観光部長 >

(あいさつ)

観光戦略課は、観光協会と表裏一体となりながら共々観光行政を推進している。

観光協会では、昨年度に社団法人格をもたれ、それに伴い今年度では、旅行業等の資格取得もされるなど、ますます観光行政に力を入れていただいている。

本市にとっても、今後多くの方が亀岡の地に訪れ、一人でも多くのリピーターを増やしていきたいと考えているので、よろしく願います。

3 出席者自己紹介

(出席者各自自己紹介)

13 : 43

4 意見交換

テーマ「広域連携による滞留型観光の推進について」

< 湊委員長 >

(テーマ設定説明)

京都縦貫自動車道の全線開通により広域高速道路網の形成が進み、今後、海外を含めた大交流が始まろうとしている中、議会としてはこの機会にしっかりと議論して方向性を持ち、本市の観光振興につなげていきたいと考えている。

本市においては、京料理・京菓子の食材生産地として、また、保津川下り、トロッコ列車、湯の花温泉の三大観光をはじめ、城下町文化や自然景観等、魅力的な観光資源を多く有している。これら本市のもつ魅力を高め、観光客を如何に多く本市へ取り込み、観光消費の拡大につなげることができるかが大きな課題である。

そこで当委員会では、地の利を生かした観光戦略の一つとして、「広域連携による滞留型観光」に絞って、今回の意見交換テーマとさせていただいた。

このテーマに沿って、広域観光の取り組み、観光PR・情報発信、観光消費の3つの側面から、その課題について、それぞれ行政、観光協会としての取り組

みや考え方などをそれぞれお聞かせいただき、意見を交換していきたい。

(1)「京都丹波」としての広域観光の推進について

< 湊委員長 >

先般、本市においては、宇治市と観光協定を結んだことが報道されたところであり、広域観光の推進が前進し、今後の活動に大変期待をしているところである。それに関連して、当委員会では、5月に静岡県御殿場市を視察してきたので、まず御殿場市の事例を少し紹介したい。

御殿場市は、静岡県の東、富士山の麓に位置し、人口・面積とも本市に類似している市であるが、富士山という大変大きな観光資源と国内一の規模を誇るアウトレットモールを有している。御殿場市では、年間1300万人の観光交流客があるようであるが、そのほとんどが富士・箱根・伊豆方面への観光客で、アウトレットに立ち寄るだけの通過型観光の形態となっているようである。そこで、御殿場市では、滞留型観光への転換を図るため、主要高速道路網が整備されることをチャンスに、「観光ハブ都市構想」を掲げられ、主要観光エリアへの中継地となるべく、様々な取り組みがなされていた。

例えば、市内観光資源のネットワーク形成やパークゴルフ場の整備等により、体験型観光を創出し、観光客の回遊性を推進している。また、広域連携の強化として、S K Y圏と呼ばれる静岡・神奈川・山梨エリアでの県を越えた交流の取り組みや、県内の主要観光地である熱海市や伊豆市、静岡県西の玄関口である浜松市とそれぞれ観光協定を締結し、観光情報の共有や相互利益を図る観光商品をつくって売り込もうと、積極的に広域観光を進めようとしていた。

本市においても、京都府南部の宇治市を先駆けとして、隣の嵐山、大阪方面、北部の宮津や舞鶴など、主要観光エリアに訪れる観光客をどのように取り込み、相互利益につなげるのか、広域観光の視点としてもつことは必要なことと考えている。

また、NHK大河ドラマ誘致による連携や、「京都丹波」としての南丹市や京丹波町との連携など、広域観光の推進について、今後のビジョンやお考えなどを伺いたい。

< 観光戦略課長 >

現在、トロッコに年間110万人、保津川下り、湯の花温泉にそれぞれ20万人を超える観光客が訪れており、三大観光には約150万人の入込客がある状況である。隣の京都市では5千万人とも言われる大変多くの観光客が訪れている状況であり、隣接する本市としては、他市からも羨ましがられるようなポテンシャルを有しており、今後、三大観光に次ぐ新たな観光ルートが必要であると考えている。

広域的な連携については、南丹地域2市1町での連携した取り組みや「大丹波連携」などがある。また、10市2町で取り組む大河ドラマ推進協議会では、縦貫道で各市町がつながることから、「ガラシャ・光秀街道」とネーミングし、ドラマ化をめざした積極的な取り組み等を行っている。こうした活動全てにおいて、観光協会と観光戦略課は一緒になってお互いの力点を融合できるように努めている。

また、京都府の「森の京都」として、観光資源の掘り起こしも行っており、実践者を中心に、マスタープランの取り組みも急ピッチで進めている。

その他、宇治市との観光協定を結んだことも含め、観光客のニーズに合ったプランを積極的に創出・提供し、三大観光に次ぐ新たな魅力として打ち出せるような整備に努めているのが、観光戦略課の取り組みの現状である。

< 楠会長 >

交通インフラ整備が進む中、個人・団体、日帰り・宿泊に関わらず、亀岡市だけを訪れる観光客数は僅かであり、多くは京都市内を中心に、京都府内、京阪神、関西圏等の様々な観光スポットを巡る旅行プランが一般的である。

そのような中、旅行者の興味やニーズに応える魅力ある観光商品づくりとともに、近隣観光都市との相互連携による観光誘客の取り組みは重要と考えている。

具体的な取り組み等として、まず京都府観光連盟への加盟連携があり、府内の市町村、観光協会、旅行事業者等、現在294団体が加盟している。目的としては、京都府を初め、観光団体等との広域的な連携による観光振興であり、取り組みとしては、観光展を広島や横浜で開催し、観光PRをイオン桂川や駅ターミナル等で行っており、観光プロモーションとしては、東京や京都市で開催している。

また、2番目の取り組みとしては、平成19年に設立された明智光秀公ゆかりの地連絡協議会に参画しており、現在構成団体は、4府県14市町の観光協会、顕彰会、商工会等である。目的としては、光秀公の顕彰、偉業・遺徳の発信、広域観光連携であり、取り組みとしては、大河ドラマ化署名活動や情報交換等を行っている。

宇治市観光協会との観光協定は、7月10日に締結したところであり、今後、宇治市と相互に観光誘客に向けて取り組んでいきたい。取り組みとしては、観光パンフレットや旅行プランの作成、キャンペーン等の開催である。

また、7月12日には、合同キャンペーンとして、京丹波味夢の里において開催しており、また、京都府連盟にお世話になって、8月17日から31日にかけては、J:COMのテレビ合同PRとして、首都圏におけるPR、9月には合同観光プロモーションを東京で行う予定である。今のところ、このように事業を進めていきたいと考えている。

<湊委員長>

ただ今の説明等について、各委員から意見はないか。

<福井委員>

「京都丹波」としての広域連携の捉え方は当然あるが、私は、「大丹波」の取り組みが重要と考えている。「大丹波連携」についての説明を願いたい。また、「森の京都」のシンボル年として、来年、当地域にスポットを当てた催し等があるように聞いているが、それに向けての取り組みは。

<観光戦略課長>

大丹波連携推進協議会は兵庫県県民局と京都府の中丹・南丹広域振興局が母体となって、関係市町である篠山市、丹波市、福知山市、綾部市、南丹市、京丹波町、亀岡市で活動している。

「森の京都」については、京都府主導のもと、来年の全国育樹祭をターゲットとして、それに向けてのマスタープランの策定に現在努めているところである。エリアについては、福知山市、綾部市から本市までの間と一部京都市の京北町も含まれている。

<福井委員>

丹波市は広大な面積を有しており、「丹波国」としての発信も大事であると考えている。また、「森の京都」について、京都府に引っ張られて動くのではなく、本市から積極的に発信していくべきである。

<産業観光部長>

育樹祭の開催は、日吉町の「スチールの森京都」で決定されている。その前夜祭を本市で予定されるように聞いている。それを踏まえ、亀岡としての「森の京都」のマスタープランを検討しており、エリアとしては、保津町のかわまちエリア、川

東の山裾周辺を中心に考えている。別途、宮前町神前などは民の部分で頑張っている。行政としても支援していきたいと考えている。

< 湊委員長 >

「森の京都」と言っても、「海の京都」のようにイメージが湧かないが。

< 観光戦略課長 >

イメージで浮かぶ森林だけではメッセージが届かないので、今、本市でのイメージづくりについて、実践者でつくろうとしていることを前提として、一つには、森からの源流は最終的に保津川に流れ込むことから、保津川を主要エリアとして「かわまちづくり」を位置付け、新たなものを発信していきたい。また、「森の京都」から亀岡の特産物等を連想して観光・産業に結び付けられるよう、わかりやすいマスタープランづくりに励んでいる。

< 楠会長 >

「森の京都」について、6月30日に1回目の会議がガレリアで行われたが、その際には、「海の京都」に参画されている福知山市、綾部市も含まれており、今後、行政としての金銭面の負担が生じる可能性があるためか、あまり賛同できないような印象を受けた。今後、色々な場で意見集約していく中であるが、来年の育樹祭の前夜祭を本市で行うところぐらいまで決まりかけているのが現状と思う。

< 藤本委員 >

18日の縦貫道全線開通により、三大観光に結び付けるような具体的な観光戦略を立てているか。

< 観光戦略課長 >

18日からの3日間、京丹波味夢の里において、2市1町連携による観光PRを行い、大変多くの観光客を実感したところであるが、動線等を考慮した具体的な部分については、まだこれからのところであり、現在取り組んでいることについて、主幹から説明する。

< 観光戦略課主幹 >

6月末、草津パーキングエリアにおいてアンケート調査を行った。中京圏が多かったが、京都縦貫道の開通を知っているかの項目について、6割が知らないという回答であり、やはり中京圏でPRをしていかないと、中々こちらへ回って来てもらえないことを実感したところである。そこで、2市1町の「京都丹波」の取り組みとして、名古屋方面からのプロモーションとして、旅行会社へツアーを増設してもらうため、その距離感を体験してもらうツアーを旅行会社向けに8月末に予定しており、各旅行会社へ案内している。実質的な経費の多くを南丹広域振興局が負担してもらえることにより、受け入れは湯の花温泉への宿泊を考えており、南丹地域を周遊する連携活動を展開しているところである。

また、京都縦貫道のキャンペーンの中で、周遊パスポートの企画についても、京都府の担当課と協議を進めている。

< 藤本委員 >

そのような具体的な戦略をしっかりと立ててPRされるよう要望したい。

< 齊藤委員 >

先ほども6割の方が縦貫道開通を知らないということであったが、戦略を立てていくためにはそのためのデータが必要となる。観光戦略課としては、これからの戦略に向けたアンケート調査はされているか。また、亀岡駅の玄関にある観光協会としても、どのような人が、どのような目的で本市に来られているのか、アンケートをとっておられるのか。それぞれにお聞きしたい。

< 観光戦略課長 >

アンケート調査は、観光PRとして外に出向いた時に行っており、直近では3月に名古屋で行ったほか、2市1町では草津パーキングエリア、7月17日の縦貫道プレオープン時にも行い、現在集計中の状況である。

< 船越事務局長 >

観光案内所では、インバウンド、海外からの観光客への対応を踏まえ、どこの国から来られているのかを把握している。また、宝探しゲームやコスモス園等でもアンケート調査を行っており、フィードバックを図っている。顧客満足が一番大切であり、アンケート調査は重要なことと認識している。

< 産業観光部長 >

特にインバウンドの関係については、京都府と協力し、今年アンケート調査を行う予定としている。

< 齊藤委員 >

インバウンドに関して、団体は中国人客が多いと思われ、個人は台湾や欧米が多いと思われる。本市としては、台湾や欧米をターゲットにしていくこととなろうと思う。そこで戦略としては、森の京都が進行中であり、その中では出雲大神宮や七福神をPRしていくことになろうが、千歳付近に夕日が落ちていく本市の田園風景は大変素晴らしく、ぜひPRしてほしい。

要は、欧米の旅行客が大変多く京都に来られているので、京都の良さと一つ山を越えれば全く違うカントリーなジャパン、こんな身近に古き良き日本があるのかというイメージの売り方をしていけばよいのではないか。「森」に力を入れても美山には勝てない。本市としてはぜひ勝てる戦略をもって、京都への観光客のうち一人でも多く本市へ訪れてもらいたい。

< 湊委員長 >

「京都丹波」としての広域連携についての項目としているので、PR等については次の項目で取上げていきたい。ただ今の項目に関して奥村副会長のご意見は。

< 奥村副会長 >

議会や委員会の活動が見えて勉強になる。これは私見であるが、議会の質問や議論では本当に本心でぶつかり合っている部分はあるのかと感じているところがあり、本日はフリートークの場として意見を申し上げたい。

広域観光としては、縦貫道が開通したことはやはり大きな問題であり、旅行会社との話では、京都・大阪の観光客は、大阪方面から亀岡に来て、中途半端な時間になるから京都へ行くということになっていたが、亀岡・美山を考えると、朝、大阪を出て、お昼には亀岡に入り、日の暮れまでの間に美山に寄り、湯の花温泉に泊まるという広域的なルートを今ならとることができる。

また、先日の大雨では交通網が機能せず、大都会の隣でありながら孤立した街となった。本市への観光客は、本市のことをどう思われるのかということを感じた。

そういうことも考えていくと、広域連携としては「大丹波」の意見もあったが、今できることからやっていく中で、宇治、美山と進めていく部分があるが、京都と連携する部分はあまりないと思う。亀岡に寄って最終的に京都へ行くということは止めようがない。如何に亀岡の良い方向にもっていかという横の面をつなげていけばよいと考えているので、関係する諸団体と密接に話し合いをすることが大切と思う。

< 川本副会長 >

まず、産業建設常任委員会が本日の会合を持つということは、産業という部分で関わってのことが確認したい。

< 湊委員長 >

当常任委員会では、市の行政のうち、産業経済・商工観光、農林関係等を所管する産業観光部、土木建築関係を所管するまちづくり推進部及び上下水道部の事務を所管事項としている。今回、その所管事項の一つである観光分野について取り上げた。観光施策に関しては、委員会でも活発に議論しており、これまで議会としても関わりがあまり持てていなかったことも踏まえ、この機会に勉強し、行政に提言できることをめざし、本日の場を設けたものである。

< 川本副会長 >

行政の観光施策にかける熱意は、協会としても大変感じている。やはり、本市の有する様々な資源を観光に結び付ける仕掛けづくりのためには、どうしても予算が極めて必要となる。大変厳しい財政状況は理解しているが、インバウンドの対応等、充実していかなければならず、本日の意見交換を踏まえ、来年度の予算化に向けて観光予算充実をぜひともお願いしたい。

< 湊委員長 >

2年前の決算特別委員会では、観光行政への予算配分を指摘し、附帯決議案を提案、可決し、翌年度予算が増額された経緯もあるので、そういった部分も議会が関わる大切な部分であると認識している。

本年度の観光推進経費は6587万円であり、そのうち観光協会への部分として3千万円余りが充てられている。財政当局との折衝が厳しいものと思われるが、議会としても予算審議に当たっては前向きに捉えていきたい。

< 木戸副会長 >

「京都丹波」に関して、思っているところを申し上げたい。今、2市1町の行政で「京都丹波」の協議会を組織しているが、園部納税協会でも広域的な面から観光に取り組むため、「京・来て観て丹波の会」を5年前に設立し、「京都丹波」に関しても、2市1町の行政と一緒に何か取り組めないかと、事業予算をみてもらえたら、ボランティア的に関わっていけると熱意を持っている。

元々、美山の人には美山を売ろうとされているし、我々亀岡の人には亀岡を売ろうとしているが、「京都丹波」のエリアに入ると、やはりそれは違うと感じた。東京から見れば、美山でも亀岡でも同じ「京都丹波」であり、そのような発想をしていかなければならない。

例えば、具体的に美山に夢コスモス園のチラシが置いてあるのか、夢コスモス園の観光客と美山を結び付けられているかという話であって、そのような運動をしていかなければならず、お互いにパンフレットをお店に設置してもらったりということを最近やり始めている。コスモス園への4万人のうち少しでも南丹美山、「京都丹波」へ引っ張っていくというような戦略は、やはり一番大きな亀岡市が中心となるべきであり、2市1町の活動の中でも主導権をとって、予算を含めて引っ張ってほしいという、もどかしい思いをしている。

また、「大丹波」に関しての意見が上がったが、丹波としての考え方は理解しているが、まだ「京都丹波」がものになっていない気がしており、まずそこをものにして、「京都丹波」エリアの中核を本市が担えるよう、「京都丹波」の取り組みに力を入れてほしいと考えている。

< 湊委員長 >

「京都丹波」・「大丹波連携」についてのご意見を伺えた。次の項目があるので、そ

ここで関連してさらに意見交換を深めていきたい。次へ進行する。

14:05

(2) 観光PR、情報発信について

< 湊委員長 >

観光PR・情報発信について、先ほどからも意見等が出されているが、本市ではこれまでから都市圏での観光キャンペーンや「るるぶ亀岡」、スマートフォンアプリなど、様々な取り組みによりPR等に鋭意努められている。それらPRの中でも、お金がかからずより一層効果があると思われるのが、メディアを活用したPRであり、大きな戦略になろうかと考えている。そこでメディア戦略に関して、ご意見を伺っていきたい。

先般の当委員会の行政視察において、熱海市では、「営業する市役所」を掲げ、観光面においても様々な取り組みをされていた。第一の考え方は、お金をかけず知恵を出すことであり、民間投資の促進に力を入れておられたのが印象的であった。

それは民間企業とのコラボ、ネットワーク化であり、中でも地元銀行である静岡銀行、三島信用金庫など、今まで目をつけなかった金融機関のネットワークの活用、また、ぐるなびと協定して、アイデアに富んだ民間の力を利用していった。

また首都圏に近いことからバラエティ番組、映画やドラマ等のロケ誘致に力をいれており、かつてから観光が減ったと言われながらも、にぎやかさのある観光地として復活されていた。

< 観光戦略課長 >

本市においても、東京、名古屋等の都市圏での観光キャンペーンをはじめ、逆に旅行社には本市に来てもらい、実際に体験して商品化してもらえるような働きかけ、大河ドラマのキャンペーンや「るるぶ亀岡」等印刷物やうちわの配布等、地道な努力を重ねている。映画等のロケに関しては、観光協会で特に力を入れておられる。

お金のかからないPRとして、メディアには中々取り上げてもらえないので、せめて新聞記事に載せてもらえれば、新聞記事では信憑性や安心感を与え、有効なPRとなることから、積極的に市の広報を通じて新聞社への情報提供に努めている。

また、SNSを積極的に活用しており、フェイスブック等により様々な情報発信にも取り組んでいる。

< 楠会長 >

観光を推進する上で、魅力的な観光スポットを創出するとともに、様々な媒体を活用して情報発信していくことが重要であると考えている。観光キャンペーンについては、JR・阪急沿線、大型ショッピングセンター等の5・6箇所において協会理事が出動し、夏・秋に計8回開催している。また、新聞や雑誌等の活用として、平成26年度実績では、新聞36件、雑誌等23件、ウェブ2件、ラジオ・テレビ1件の計62件の活用がとれた。平成27年度では現在まで新聞18件、雑誌等10件、ラジオ・テレビ2件の計30件の状況である。

また、ロケ地支援として、平成25年度ではロケ10件、平成26年度では相談等26件中、ロケ実績が15件、平成27年度現在では5件の情報提供・相談があり、うち放映が1件の状況である。また平成25年度から3年連続でNHKの朝ドラのロケ地に選ばれており、今年度も8月頃にロケが予定されている。

< 産業観光部長 >

本市は、実はメディアに取り上げられる機会が多いと感じている。関西系のテレビでは、今年度以降10本程度、放映されている。ただし、放映の仕方がスポット

的で、亀岡ということが表示されていないことがあり、ロケ支援においては、テロップで亀岡市が協力していることを表示してもらえようようお願いしている。メディアには積極的に働きかけたいと考えている。

< 菱田委員 >

先ほどの「京都丹波」を含め、観光PRについての説明を聞いていると、独自に色々なところでPRされていると感じた。一方では、奥村副会長からは京都に頭を下げて連携する必要はないとのご意見であったが、京都に来られた観光客に対して、亀岡でもう1泊とアピールすることは必要と考える。湯の花温泉は京の奥座敷と呼ばれていることから、京の奥座敷がどのようなところであるのかを打ち出せるPRをしてほしい。

私もフェイスブックで今年の亀岡祭の山鉦巡行を動画でアップしたところ、祇園祭の山鉦とは違い、ビルの間ではなく屋根の間を巡行すること、その山鉦も見劣りしないと大変評価をいただいた。ぜひ、行政としても山鉦の動画を色々なところに貼り付け、SNSで発信してもらいたい。そこへのコメント、評価は世界に広がる可能性があると思う。

日本の田舎で観光地として流行っているところは、台湾やアメリカ等からの有名なブロガーがそこで感想を書いて写真を送ると、そのファンがそこへ訪れるというケースが多い。こっちから出向かずとも向こうから来てもらえるということであり、そのようなことを提案したい。

< 観光戦略課長 >

先日、京都府を通じて紹介があり、韓国のある有名ブロガーに本市の主要観光スポットを直接見てもらい、発信してもらったことがあり、そのような機会には積極的に対応していきたい。

< 観光戦略課主幹 >

インバウンドの関係について、繰り越した予算の中で地方創生の経費があり、その経費を活用して、中国に日本の観光を取り上げるテレビチャンネル「関西印象」という番組で本市の観光スポットを1カ月間放映してもらえよう、宇治市と連携して取り組んでいる。

また、京都市の観光協会との連携として、京都市の観光情報誌「京ごよみ」が月刊4万部発行されている中に、「亀岡特別版」として春、秋の2回、8ページ増刷して亀岡の観光情報を掲載いただくことを計画しており、市内事業者との連携で協賛金をいただく中でそのようなことができないかという取り組みも進めている。

< 藤本委員 >

本市のメディア戦略について、例えば光秀まつりや亀岡祭では、広告を出すとお金がかかるので、各新聞社や放送局に毎回案内を出すことが必要である。そうすればただで取り上げてもらえることにつながる。メディアを上手に活用されたい。

また、世界観光都市のランキング等の基準は、海外の有名な旅行雑誌の投票によるところが大きいので、そういうところへ入り込んでいく戦略が大事である。

また、亀岡は、美山に対して自然で競っても勝てずその必要はない。スタジアムのできる亀岡、南丹市のトライアスロン、丹波自然運動公園のトレーニングセンターと、2市1町で京都府のスポーツゾーンと位置付けて、その中で例えば道の駅の京丹波味夢の里から美山、スプリング日吉の温泉、新光悦村、亀岡に入り夕食、宿泊をして翌日には京都へ行ってもらうような戦略を立てるべきであり、そのようなことは本市だけではできない。2市1町で連携して取り組むことが大切である。

< 齊藤委員 >

先ほど、「京都丹波」の広域観光に関して、京都の観光客を取り込めるようにと申し上げたが、京都に頭を下げてお願いするつもりで申し上げたのではないので、誤解のないように理解願いたい。京都と喧嘩してでもという意味であり、同様に美山に関して、同じ自然では向うの方が深いので、違う意味で亀岡を発信することを考えていこうということであり、何も連携しないということでは全くないことを申し添えておきたい。

メディア戦略に関して、NHK他、テレビ番組制作会社に長年勤めていた方が退職し本市に今おられる。ぜひそのような人材を活用し、熱海市の取り組みのように市がディレクターとなって、テレビ局にどんどん売り込めるようなことをしてほしい。

<並河委員>

本市がロケ地となった場合には、その場所の発信を願いたい。

また、京都の隣に立地している本市の地理的な優位性を発揮し、本市の観光スポットをつないでゆったりと滞在できるような施策にもっと力をいれてほしい。

<湊委員長>

テレビのテロップに地名を入れてもらえると馴染みがでてよいのではという意見であるが。

<船越事務局長>

ロケ地や協力者等の発信は必要と考え、テレビ会社とも交渉しているが、色々な制約等があり、そのとおりにはいかないことがあり、複数のロケ地にまたがる場合には、1箇所のみしか表示できず、やむなく亀岡市観光協会とするケースや事前の発信はできない場合等がある。できる限りの発信には今後も努めていく。

<福井委員>

事後の発信にはもっと充実してほしいと考えるが。

<船越事務局長>

市民新聞や京都新聞等でも特集でロケ地等の情報発信をしていただいている。違うツールでも考えていきたい。

<福井委員>

事前にできないのはよくわかるが、亀岡のまちの中でこういう場所にスポットが当てられ撮影されましたという発信は、亀岡の中だけでなく、全国に発信しなければならないことである。

<船越事務局長>

先ほどは市民に向けての発信ということであり、指摘のとおりより多くのメディア等で発信するため、ロケ地等のリストづくりをして今後発信していきたい。

<湊委員長>

この項目に関しては以上とさせていただきます。

15:06

(3) 観光消費の拡大について

(4) その他

<湊委員長>

広域観光の推進、PR戦略により、多くの観光客に本市に立ち寄ってもらうことができても、来てもらうだけでゴミだけ残していられるようでは、何の意味もない。

来てもらった以上は、ここでお金を落とし、地域経済の活性を促すようなことが必要であり、いかに観光消費を拡大させるかは大きな課題として、共通認識であると考えている。この観点から、観光消費を拡大させるビジョン等について意見等を伺いた

い。

また、時間の関係上、これまでの意見交換を総合して、(4)のその他の項目についても合わせて意見等を伺いたい。

議会としては、行政執行のチェックや政策等の提言を行っている中で、観光振興に向けてどのような関わり方ができるのかを考えている。観光協会からは、最後に、議会に期待すること等を含め、この際にぜひご意見としてお聞きしたい。よろしく願います。

<観光戦略課長>

観光消費は入込客数や滞在時間に比例するので、何とか本市への滞在時間を増やしていきたい、そのような仕掛けが必要であることを痛感している。

嵯峨野観光鉄道ではトロッコ亀岡駅でレンタサイクル事業を始められ、本市に合ったツールとして、自転車による取り組みも現在進めている。先日、亀岡駅駐輪場とも協議し、レンタサイクルの返却場としての協力を要請した。稼働率の改善や貸し出しの方向性にも期待している。滞在時間が増えれば、飲食等にもつながってくるので、このような取り組みを積み重ねていきたい。

また、旅行ではお土産がつきものであり、これは私見であるが、土から産まれるところから亀岡の野菜がぴったり合うので、上手く引っかけて売り出していきたい。食にもつながり、京都に勝てる食材であるので、今後のキーポイントとしていきたいと考えている。

<木戸副会長>

これから、亀岡が伸びていくのは農業観光であると考えている。各拠点には100円を入れて野菜を手にとってもらう販売所がある一方、たわわ朝霧ではどんどん売り上げを伸ばしている。農協に出荷してリベートを取られる農家の方々がもっと自立して各拠点でやっていこうとする姿勢が必要であり、それは行政にもあるのだが、そこで引っかかってくるのは調整区域の制限である。

建物を建てるにしても、観光バスが立ち寄れるようにするならば、トイレは不可欠であるが、そのトイレは建てられず、掘っ建て小屋みたいなところでしか仕方がない。これを何とかしなければならない。亀岡は京野菜の里であり、秋には松茸や栗など日本一のものが採れる。「森の京都」の観点では、森林から生まれる松茸やばたん等、そのようなものを売り出していける。ましてや京野菜の里と呼ばれる亀岡市ならば、もっと農業者が潤うような戦略が必要であり、拠点的に小さい規模でよいので、観光特区という考え方を行政、議会で考えてほしい。

本市の農産物は観光商品として本当に素晴らしい。日本一のものができているのにもかかわらず、なぜ亀岡市は経済的にこんなに苦しまなければならないのか、料理人としても思うところがあり、ぜひとも今後の展開として特区について考えていただきたい。

<湊委員長>

観光では、体験型に変わってきたと最近よく言われており、また、特に西部地域では農産物直売所に大阪方面から多くの方が来られており、リピーター客も毎週末来られているとのことであり、今のご意見は大変重要なことと考えている。

<楠会長>

三大観光以外にも、今後は、スポーツ観光、農業観光にもスポットを当てなければならない。一番考えていることは、果たして亀岡市民のうちこの三大観光に行ったことのない人はどれくらいの割合なのかということであり、行ったことがない人は中々周りに亀岡を紹介できないであろう。三大観光の各施設とも市民割引には相

談に乗ってくれると思うので、まずは亀岡市民の利用促進を考えてもらいたい。その上で、三大観光以外にも素晴らしいところが一杯あることを広めてほしい。議員には支持者がいるので、ぜひそのようなことも考えていただきたい。

< 木戸副会長 >

今の意見に関連して、湯の花温泉の掘削には当時約3億円かかっており、その後さらに深く掘削するのに2・3億円程度を要したにもかかわらず、湯の花温泉のための温泉というのが今の状態である。市民の血税を使いながら市民が享受していないことは大きな問題であると考えている。湯の花温泉の広報についても、口コミの広報が最も効果的であり、外湯の施設をつくることや、廃業している施設等を買って取って改造するなど、そういう市民享受型の温泉施設をもっておくと、他の観光施設とつなげていくことができる。「京都丹波」の一番に温泉がありながら、日吉やるり溪に行かれており、そこは大変流行っている。そこを大変情けなく感じている。亀岡市の財産として、議会でもお考えいただきたい。

< 奥村副会長 >

冒頭にも申し上げたが、議員の立場を考えたときには、理事者の打ち込んだ施策に対して審判や是非を判断する役割が大きな構図としてあるが、もう一つ大きな役割があると思う。それは市民のニーズを如何に把握し、市民が何を考えているかをすぐに察知してもらおうことである。それは市民というくくりの中で、例えば観光面で捉えた場合には、団体は何を考えているのかを把握することであり、そういうことを理事者側に提案し、折衝していただきたい。折衝の仕方によっては大きな予算がつき、大きな事業を進めることができる。やはりそういう方向にもって行ってほしいと考えている。単に政策だけで観光予算をこれくらいとつけるのではなく、実現させるために必要な予算と捉えてもらえるよう、議員の資質を高め、自覚してもらえたらありがたい。よろしく願います。

< 川本副会長 >

このような懇談の場を今回だけでなく、できれば今後年1回は開催してもらえたらと思う。非常に有意義な意見交換会であったと思う。

突拍子もない意見であるが、老ノ坂を越えて頼政塚までの景観は非常に殺風景であり、大変大きな話ではあるが、ぜひともまちづくり、景観づくりの観点からも考えていただきたい。

また、農業観光、スポーツ観光に関して、コスモス園のある吉川の運動公園周辺について、駐車場整備を含め、観光客を寄せて消費につなげられるよう商業ができるような仕掛けづくりについても、色々なハードルがあるがぜひ考えてもらいたい。

最後に、北陸新幹線の延伸は本市の将来にとって大変大きな要素になることから、非常に大きな期待と心配をしている。

< 湊委員長 >

様々に貴重なご意見をいただいた。亀岡市民が地元の観光施設に行っていない、観光の基本になっていないということは、地元の商店街で買い物をせず悪循環となっている事例とよく似ている形態があるのではないかと考える。議会への要望等も様々にいただいたので、今後の活動に生かしていきたい。ここで西口議長より意見をいただきたい。

< 西口議長 >

議会としても、市民の心情をくみ取れる議会にしていきたいと強く感じているところであり、そういう思いを踏まえて、各種団体との意見交換会の実施について、常任委員会ではこのように積極的に取り組まれているところであり、議会の姿勢と

してそういう取り組みをしていきたい。また、中々入りにくい情報も共有できることから、情報共有の面からも大切なことと考えている。

縦貫道を通させるだけの道具にさせないという思いは皆同じであり、ターゲットをどのように絞っていくのか等、色々なことについて、今後も情報の共有をしながら亀岡の観光振興に取り組んでいければという思いである。今後も機会があればぜひ積極的にこのような場をもっといただければと望む。

<湊委員長>

最後に、副委員長からあいさつを申し上げる。

<小島副委員長>

(あいさつ)

本日の意見交換を通じて、議員のあり方についても再認識させていただいた。

18日の縦貫道全線開通により全国から本市を通過される中、やはり本市に降りてもらわなければならない。また5年先には法貴峠バイパスも開通する。大阪圏からも如何に本市に引っ張ってこれるか、大きな課題である。担当・所管は違うが、それらのインフラ整備、駐車場やトイレを含め、受け入れ体制の整備も必要である。

この度の意見交換の内容を委員会活動に生かし、市民ニーズに応えられるよう、今後も取り組んでいく所存である。今後ともよろしく願います。

<湊委員長>

以上をもって本日の意見交換会を閉会する。

~ 散会 15 : 26

(散会后、決算特別委員会分科会に切替)